

PRESS RELEASE
EMBARGO 14 APRIL 2026 8AM CET

アトリエ コン プリケーション

オリスのアーバン・ドレスウォッチが、再び登場。洗練されたラインとモダンなプロフィールを備えた「アトリエ コンプリケーション」は、独立した精神を持つ新しい世代のためのタイムピースです。

ORIS
HÖLSTEIN 1904





月の光のもとで

今年、オリスのアートリエ コンプリケーションが再び登場。ムーンフェイズを備えたスイスメイドの機械式時計がもたらす喜びは、決して色あせることがないことを証明しています。

人類はこの先数年のうちに、再び月面に降り立つかもしれません。最後に人間が月を歩いたのは1972年、クリスマス直前のことでした。ジーン・サーナンが月面から宇宙船へと戻ったその瞬間です。当時、多くの人は、その後半世紀以上ものあいだ人類が再び月へ戻らないとは想像していませんでした。

しかし、私たちの月への関心は決して薄れることはありません。月は地球に最も近い天体であり、その軌道周期は地上で起こるさまざまな現象に影響を与えています。澄み切った夜空に浮かぶ満月の光は、世界をくっきりとした美しいモノクロームの風景へと変えます。また、1960年代の宇宙開発計画を伝えるワシントンD.C.の国立航空宇宙博物館は、世界で最も多くの人を訪れる博物館の一つでもあります。

こうした尽きることのない月への憧れは、18世紀の時計職人たちにもインスピレーションを与えました。彼らは月

の29.5日の周期を、ムーンフェイズ表示として時計の中に表現したのです。

そして同じ想いが、新しい「オリス アートリエ コンプリケーション」にも息づいています。時代を超えて愛される詩的なムーンフェイズを特徴とするこのモデルは、2026年のWatches and Wonders Genevaで発表されます。

本作は、オリスのプロダクトデザインエンジニア、レナ・フウィラーによるコレクション刷新の一環として誕生しました。まだ24歳という若き才能である彼女は、オリスのクラシックなモデルに現代的で都会的なプロファイルを与え、ムーンフェイズ表示を自由な精神を持つ新しい世代の時計愛好家へ向けて再構築しました。

「ムーンフェイズウォッチは、伝統的な時計製造へのロマンティックなオマージュです」と彼女は語ります。月の魅力は、これから変わることはありません。

新しい個性を放つとき

アートリエ コンプリケーションは、次世代の時計愛好家のために生まれた、都会的なコレクションの中心となるモデルです。

新しいアートリエ コレクションのフラッグシップモデルとして、「アートリエ コンプリケーション」をご紹介できることを大変嬉しく思います。オリスのクラシックモデルとして長く愛されてきたこの時計が、よりダイナミックな新しいプロファイルをまとい、現代的な姿で帰ってきました。

デザインを手がけたのは、オリスの新しいプロダクトデザインエンジニア、レナ・フヴィラー（6ページ参照）。まだ24歳という若きデザイナーである彼女が、長年愛されてきたこの時計に新鮮な感性を吹き込みました。

今回の大きなアップデートは、コンプリケーションとその表示方法にあります。その中心となるのが、新しい自動

“
クラシックな機能を、現代的に再解釈したデザイン

巻ムーブメント「キャリバー782」です。このムーブメントは従来モデルに搭載されていたキャリバー781と基本構造を共有していますが、これまで4つあったサブダイヤルのうち2つを取り除いています。その結果、新しいモデルではサブダイヤルは2つのみとなり、12時位置にムーンフェイス、6時位置に24時間表示の第2時間帯を備えています。

この設計変更により、2つの明確な利点が生まれました。第一に、必要な情報を保ちながらダイヤルをすっきりと整理できたこと。第二に、調整操作をリューズとケース右側に統合された1つのプッシャーだけで行えるようになったことです。

ダイヤルカラーは、アイボリー、ミッドナイトブルー、チェスナットの3色を用意。それぞれのダイヤルは3つのゾーンで構成されています。テクスチャー仕上げの中央部分、なめらかで緩やかにカーブした外周リング、そしてブランドを象徴する2つのコンプリケーションを表示するサブダイヤルです。チェスナットモデルではサブダイヤルをより濃い色にすることで、視認性を高めています。

ムーンフェイスには、星空を背景にしたシルバーの月が描かれています。その背景は、ムーンフェイス表示のカーブした開口部カバーと同じデザインになっています。このカーブした形状は月の満ち欠けを表現するためのものであり、同時に装飾的になりがちなカバーの存在感を抑える意図もあります。ダイヤル全体は、優雅にドーム状にカーブしたサファイアクリスタルで覆われています。

さらに、細部にもモダンなデザインが反映されています。テーパー形状で段差のあるアワーマーカー、先端がスクエア形状の時針と分針、そして「Artelier」と「Swiss Made」の表記には新しいサンセリフ体が採用されています。





新しいアトリエ コンプリケーションのデザインを手がけたのは、24歳のプロダクトデザインエンジニア、レナ・フヴィラーです。彼女がこれまでの歩みと、この時計に込めた想いを語ります。

インタビュー：レナ・フヴィラー

未来へ向 けて



私と同じ世代の人たちが、この時計を楽しんで身に着けてくれる姿を想像すると、思わず笑顔になります。

レナ、はじめまして。まずはご自身について教えてください。

私の名前はレナ・フヴィラー、24歳です。ベルンの田園地帯で育ちました。5年前、インダストリアルデザインを学ぶためにバーゼルへ移り、大学で学位を取得したあと、オリスにデザイナーとして入社しました。音楽も好きで、コンサートにはよく足を運びます。サクソフォンも演奏するのですが、どちらかという演奏するよりも、客席でその場の空気や雰囲気を楽しむほうが好きですね。

オリスに入社したのはいつですか。また、オリスのデザインやブランドストーリーのどんなところに惹かれたのでしょうか。
入社したのは2024年、大学を卒業してすぐでした。求人広告を初めて見た瞬間のことは今でもはっきり覚えています。当時はちょうど学士論文を書いている最中だったのですが、その場で手を止めて、すぐに応募書類とポートフォリオの準備を始めました。オリスは細部へのこだわりと高い品質基準を持ちながら、同時にユーモアや楽しさを忘れないブランドです。その姿勢がとても魅力的に感じられまし、自分の価値観とも通じるものがあると思いました。

デザインのインスピレーションはどこから得ていますか。

私はいつも、思わず驚いたり、見つけた瞬間に嬉しくなるようなアイデアやモノ、小さなディテールを探しています。インスピレーションは特定のデザイナーやブランド、あるいは特定のメディアからだけ得るものではありません。むしろ、日常のさまざまな場所にあると感じています。もちろん、インターネットを通じて革新的な

アイデアを見ることも多いですが、建築やクラフト、インテリアデザインなどからも大きな影響を受けます。伝統的な職人技と新しいアイデアが交差する場所に強い魅力を感じますが、それは時計の世界にも通じるところがあると思います。

今回、新しいアートリエ コンプリケーションをデザインされました。とても美しい時計ですね。どのようなアプローチでプロジェクトに取り組んだのでしょうか。

アートリエ コンプリケーションは、これまでオリスの中でも非常に成功してきたモデルであり、その存在が今回の新しいモデルの出発点になりました。私の目標は、この時計を現代的なデザインへと翻訳することでした。開発プロセスの初期段階で最も大胆だった決断は、従来のモデルにあった4つのカウンターのうち2つだけを残すということです。そうすることで視覚的な焦点を整理し、ムーンフェイスのための十分なスペースを確保しながら、現代的で整った印象のダイアルを実現することができました。

ムーンフェイスについて言えば、通常その窓の形状は半円を切り取ったような形になっています。この形状は月の満ち欠けの位置を正確に表示するために必要なものですが、デザインとしては、他の要素と必ずしも調和していない場合があります。新しいアートリエ コンプリケーションでは、この形状自体は機能的な理由からそのまま維持しつつ、カウンターと同じ色の円形の星空の中に配置することで、より自然にデザインへ溶け込むようにしました。この円形の星空は第二時間帯のカウンターのデザインとも呼応しており、ダイアル全体のバランスを整える役割も果たしています。



なぜムーンフェイスを残したのでしょうか。

私にとってムーンフェイスウォッチは、伝統的な時計製造に対するロマンティックなオマージュのような存在です。とくにこの新しいアートリエ コンプリケーションでは、ムーンフェイスが以前よりも重要な役割を担っています。機械式時計の魅力や伝統を象徴する要素として、非常に象徴的な存在だと思っています。

最近の時計デザインではサイズについても多く議論されています。39.50mmというサイズはどのように決めたのでしょうか。

いくつかの要素が重なってこのサイズに決まりました。まず、このサイズがケースのプロポーションとして非常にバランスが良いと感じました。そして、この時計のディテールは軽やかに洗練されている

ため、このサイズでも重く感じたり主張が強すぎたりすることはありません。私は比較的手首が細いほうですが、それでもこのケースサイズは自然にフィットします。多くの人にとって心地よく着けられる、非常に汎用性の高いサイズだと思います。

この時計には新しいムーブメントが搭載されています。オリス キャリバー782はデザインにどのような利点をもたらしましたか。

既存のキャリバー781をベースに改良したことで、このムーブメントはまったく新しい表情を持つようになりました。3時位置と9時位置のカウンターを取り除いたことで、ムーンフェイスと第二時間帯のカウンターにより多くのスペースと存在感を与えることができ、ダイアルはより整理された印象になりました。また、ファセット仕上げ

のインデックスなど、小さいながらも重要なディテールのためのスペースを確保することもできました。これはかなり大胆で勇気のいる決断でしたが、結果として非常に良い方向に作用したと思います。

今回のコレクションのカラーパレットも印象的です。どのような考えで選ばれたのでしょうか。

オリスは、人々を笑顔にするブランドです。そこで私たちは、温かみがあり控えめで自信に満ちていながらも、決して派手すぎない色のパレットを目指しました。アイボリーは穏やかに落ち着いた印象を与え、ミッドナイトブルーは力強さと洗練を感じさせます。そしてチェスナットは汎用性が高く、説得力のある色です。この3つのカラーによって、コレクションは確かな安定感とタイムレスな魅力を持ちながら、過剰な主張をしないバランスを実現しています。

まだ24歳という若さですが、スイス時計のクラシックモデルをこれほど早い段階で再デザインするのはどんな気持ちでしたか。

本当に刺激的で、ワクワクする挑戦でした。今回はコレクション全体を開発するプロジェクトだったため、コレクション全体のコンセプトを考えるところから、個々の時計のディテールに至るまで関わることができました。とてもエキサイティングで、同時に大きなやりがいを感じる仕事でした。若いデザイナーにこれほどの信頼を寄せて任せてくれる企業は多くないと思います。オリスがこの機会を与えてくれたことに、心から感謝しています。

完成したアートリエ コンプリケーションを、今どのように感じていますか。

クリーンでモダンな、都会的なドレスウォッチだと思います。クラシックでありながら現代的で、さまざまなシーンに合わせられる汎用性の高いデザインです。そして、私と同じ世代の人たちにもきっと楽しんでもらえる時計だと思います。そう考えると、とても嬉しくなります。

アトリエ コンプリケーション

アトリエ コンプリケーションが再び登場。モダンなプロファイルと2つのコンプリケーションを備えたこのモデルは、新しい世代に向けた都会的なドレスウォッチです。

詳細

ケース マルチピース ステンレススチールケース

サイズ 39.50 mm

厚さ 11.80 mm

ラグからラグまで 45.50 mm

ダイヤル アイボリー、ミッドナイトブルー、チェスナット

蓄光塗料 スーパーミノバ®を充填した針

風防 両面ドーム型サファイアガラス(内面無反射コーティング)

裏蓋 ステンレススチール製、ねじ込み式、ミネラルガラス製シースルーバック

リューズ ステンレススチール製リューズ、4時と5時の間にプッシュボタン

ストラップ ダークブラウンレザーストラップ(バタフライクラスプ)

またはマルチピース ステンレススチール製メタルブレスレット(バタフライクラスプ)

防水性 3気圧防水

ムーブメント

ナンバー オリス キャリバー782

機能 センター時・分・秒針、12時位置にムーンフェイス、6時位置に第2時間常表示、ストップセコンド

巻き上げ方式 自動巻き

パワーリザーブ 41時間

販売価格

メタルブレスレット: 506,000円(税込)

レザーストラップ: 462,000円(税込)

発売時期 5月



Artelier Complication
782 7811 4051-07 6 20 17FC



Artelier Complication
782 7811 4055-07 6 20 17FC



Artelier Complication
782 7811 4056-07 6 20 17FC



Artelier Complication
782 7811 4051-07 8 20 20



Artelier Complication
782 7811 4055-07 8 20 20



Artelier Complication
782 7811 4056-07 8 20 20



本プレスリリースに関するお問い合わせ
ORIS.CH/PRESS

03-6260-6876
INFO.JP@ORIS.CH

ORIS
HÖLSTEIN 1904